

科学研究費助成事業（基盤研究（S））公表用資料
〔平成31年度（2019年度）研究進捗評価用〕

平成28年度採択分
平成31年3月1日現在

「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究

“African Potential” and overcoming the difficulties of modern world: comprehensive area studies that will provide a new perspective for the future of humanity

課題番号：16H06318

松田 素二 (Matsuda, Motoji)

京都大学・大学院文学研究科・教授



研究の概要（4行以内）

現代世界が直面する諸問題（民族紛争、宗教対立、貧富の拡大、環境破壊、ジェンダー不平等、社会的不寛容など）の解決のためにこれまで数百年に渡って正当に評価されることのなかったアフリカ社会で生成発展してきた知恵や思想を、「アフリカ潜在力」として取り出し実践的な処方箋として検討すると同時に、それを新たな人文知の基礎として解明する。

研究分野：総合人文社会

キーワード：アフリカ潜在力、紛争解決、環境保全、社会的平等、市民性、

1. 研究開始当初の背景

アフリカ社会は独立を獲得したのち、20世紀末になると、政治的混乱や経済的破綻が続き、国際社会からは救済・同情の対象と見なされてきた。内戦内乱、経済崩壊、社会的混乱、生態系や環境の破壊といった「問題」に直面するとき、国際社会はグローバルスタンダードに基づく処方箋で問題を解決しようとしたが、結果的に失敗した。アフリカ社会が創造した思考や制度によって問題解決の糸口を掴む可能性があるのではないかというのが出発点であった。

2. 研究の目的

第一は、現代アフリカ社会が直面している多様な困難や難題に対して、アフリカ潜在力に問題解決のための有効性がどの程度備わっているのかを、現実の困難に直面している現場から明らかにすること。第二は、第一の問題解明を通して獲得したアフリカ潜在力を総合し理論化する作業を行うことによって、21世紀の人類社会の知の地平を拓き、問題解決の

実践力と新しい世界観の双方を展望する、新しい人文・社会的知を抽出すること。

3. 研究の方法

研究方法の大原則は現地のフィールドワークを通して現場から学ぶことである。それを基礎として、それぞれテーマと関心を共有する「アフリカ潜在力共同研究班」を7組設け、さらに合同研究会、班長会議、全体会議によって各班の有機的連携と成果共有を測る。その成果をアフリカ人の中核メンバーと定期的に共有し問題点と可能性を明確化する。

4. これまでの成果

本研究の二つの目的（①現代世界の直面する困難を乗り越える方策としてアフリカ潜在力の汎用性を検討する、②アフリカ潜在力の根底にある人間観や社会観を抽出し新しい人文的知識の様式を提出する）を追求するために、これまで以下のような成果をあげた。第一の目的に対してまずアフリカ潜在力概念の精緻化（理論化）を進め欧

米の学会やアフリカ各地のフォーラムを通じてその有効性について強力に発信した。それを踏まえて3系7共同研究班が連携したフィールドワークによってアフリカ潜在力が多様な問題解決のために有効であることを確認できた。これはアフリカ潜在力が、現代世界の難題解決に貢献する可能性を示したものである。第二の目的に対しては、アフリカ社会が創造する人間観や社会観が、人類社会に対するもう一つの普遍性に繋がっていることを3回のアフリカフォーラムを通じて確認できた。これはアフリカ発の新たな人文知の可能性を展望するものである。

5. 今後の計画

「アフリカ潜在力」の問題解決のための実践的汎用性について、さらに広く深く事例を確認し検討すると同時に、それを支えるもう一つの人文知の抽出のために、哲学的思想史的作業にも力点を置く。そのための場として、アフリカフォーラムを、2019年度にはザンビア(ルサカ)で開催し南部、中央部アフリカから研究者を招く。2020年度にはタンザニア(ダルエスサラーム)で開催し、東部、北東部アフリカの研究者を集める。また最終年度は京都で総括シンポを開催する。7つの共同研究班からは研究成果を7巻の英書シリーズとしてLANGAAから出版する。また理論と実践の総括として、アフリカ人コアメンバーと日本側メンバーの共著で英書を刊行する。

6. これまでの発表論文等(受賞等も含む)

Matsuda, M. 2018.
A genesis of street communality: with special reference to the political culture of street violence in Nairobi. *Diogenes* (OnlineFirst): 1-10.

African Study Monographs Supplementary Issue No. 57 (2018), Land, Agriculture and Unfinished Decolonization in Africa: Essays in

Honour of Sam Moyo (edited by Yoichi Mine and Horman Chitonge)

African Study Monographs Supplementary Issue No. 56 (2018), African Potentials: Their Diversity, Dynamism and Challenges (edited by Motoki Takahashi)

宮本正興・松田素二共編著、『改訂新版 新書アフリカ史』、講談社、p784、2018年。

Shiino, W., Shiraishi, S. and Mpyangu C. M. (eds.) 2018, Diversification and Reorganization of 'Family' in Uganda and Kenya: A Cross-cultural Analysis, Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, pp169.

Cornelissen, S. and Mine, Y. (eds.) 2018. Migration and Agency in a Globalizing World: Afro-Asian Encounters, London: Palgrave Macmillan, pp290 + xxiii.

Abe, Toshihiro 2018, Unintended Consequences in Transitional Justice: Social Recovery at the Local Level, Kyoto University Press pp241

Yamada, Shoko 2018, 'Dignity of Labour' for African Leaders: The Formation of Education Policy in the British Colonial Office and Achimota School on the Gold Coast Langaa RPCIG, Cameroon, pp346

遠藤貢、関谷雄一編 2017
『東大塾 社会人のための現代アフリカ講義』東京大学出版会、284頁。

Gebre, Y., Ohta, I. and Matsuda, M. (eds.) 2017, African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions, Bamenda: Langaa RPCIG, pp460.

Toshio Meguro 2017, Gaps between the Innovativeness of the Maasai Olympics and the Positionings of Maasai Warriors, *Nilo-Ethiopian Studies* 22, p27-39.

7. ホームページ等

<https://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/mms/>